

旧相馬家住宅 重要文化財

これは、函館で最も有名な商人の1人である相馬哲平（1833～1921）の家でした。相馬は、現在の新潟県で生まれ、28歳で函館に来ました。彼は米と水産物の貿易業者として働き、その後銀行を設立し、39歳までに街で最も成功した商人になりました。彼は函館の発展を促進するために努力し、1908年に函館の旧公会堂の再建に資金を提供しました。

相馬は同じ年にこの邸宅を建てました。建物の内部と外部の両方は、西洋と伝統的な日本の建築が融合されています。正面玄関には、北海道では珍しいタイル張りの湾曲した屋根があります。洋間は、独特の緑の外観、精巧に彫られた窓枠、華やかな天井の造形、シャンデリアが特徴です。居間は、伝統的な日本の空間で、引き戸の上の壁に畳、床囲い、小さな神社があります。本館に隣接する土蔵には、江戸時代（1603～1867）の北海道やアイヌの人々の姿を描いた屏風絵を含むアートコレクションがあります。